

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171900067		
法人名	有限会社東海ケア		
事業所名	グリーンホームかさほら I		
所在地	岐阜県多治見市笠原町4406-1		
自己評価作成日	平成26年9月10日	評価結果市町村受理日	平成26年11月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_2014_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2171900067-00&PrEfCd=21&Versi onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成26年10月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

いつも原点に戻り、朝夕唱和する理念を元に職員はもちろん利用者さん方も元気で笑顔がある毎日を送れるように努めている。舞台つきの大広間は、地域の方々の踊り、マジック、又子供会の方達の発表の場として利用して頂き、利用者を交えた交流のばになって来ている。誕生日には利用者の意向を聞き、担当者が計画を立て一緒に外出する。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所独自の歌と体操があり、毎朝職員と利用者が一緒に合唱し、体操しながら自然体で身体能力の維持を図っている。24時間職員が常駐する利点から、地元高齢者の困りごとの相談に乗ったり、住民の緊急保護的機能の役割も担っている。地区行事には事業所の大広間や庭先を提供している。お祭りのときには休憩場所とし、お菓子の交換をして利用者や住民が笑顔で交流している。管理者は職員個々に毎月手書きの手紙で利用者との対応や感謝の思いを伝えている。職員間の良い関係を築いて、利用者へ質の良いサービスを提供できるよう努力もしている。全職員が救急救命訓練を専門機関で受講し、応急手当推奨事業所としても認定を受け、安心して安全な生活の支援に取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝夕申し送り時理念を唱和する。その中に「地域の協力を得て交流を深める」の文がある様に地域の方の訪問、防災訓練等来て頂いたり出向いたりしている。	利用者を尊重し安全で安心して暮らせるように、毎日の申し送りで確認している。ミーティングで理念が実践できているか話し合いをしている。管理者は気づいた時に職員個々に話をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板を持って行き、少しでも会話をして来る。地域の防災訓練、ボランティア、お祭り等に参加している。	買い物や散歩時に住民と気軽に挨拶を交わしたり、会話したりしている。行事や日々の様子を回覧板で知らせ、いつでも行き来できる関係がある。地域の福祉祭りへの出展を協力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	回覧にて古着、古タオル又は採れたての野菜、今年は蛍等色々な形で、持参して下さる方もあり、ホーム側はいつでも遊びに来て頂ける様にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議では、地域の方達からの要望があり、一時避難所として受け入れをしてほしい。との意見に対して受け入れさせて頂きました。	メンバーが参加しやすい夜間帯に開催している。事業所の大広間の活用や緊急時の協力体制についての意見が出て運営に活かしている。家族の参加を呼びかけているが、家族の参加が得られていない。	家族の実情も踏まえ様々な機会を通し、会議への参加の呼びかけを工夫されたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の福祉課、包括センターの方も運営推進会議に参加して頂き、実情報告、情報提供を交え協力出来る様に取り組んでいる。	家族不在の利用者への対応や困難事例について、電話したり、出向いて相談している。市からの働きかけにより、同種事業者同志が連携し情報交換できる体制も整いつつある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加し、身体拘束となる具体的な行為を正しく理解し、職員が常に入居者さんの行動に目配りし、施錠しなくても良いケアに取り組んでいる。	玄関にチャイムを設置し外出の気配があれば、職員が一緒に付き添う支援をしている。体型が大きく車イスからずり落ちそうになる人に、転落防止の為にベルトで抑制している。家族には口頭の了解のみで、手続き及び書類等の整備がなく実施している。	身体拘束に関する同意書の記載について準備中であるが、職員間で身体拘束しないケアにつなぐように、さらなる話し合いを重ね、書類の整備を実施されたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を受けて、職員全員で月1回のミーティングにて、入居者さんの様子を話し合い行動を見守り、声掛にて虐待防止に努めている。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度のシンポジウムに参加し、理解を深めようとしている。又現在制度を利用されている方があり、関係者との話し合いも出来る様になっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行いトラブルを防ぐよう理解、納得して頂いた上で契約に心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に意見箱が設置していますが、家族と直接意見交換できる様に努力している。毎月の手紙でも意見がありましたら・・と書いている。	面会時に職員が気軽に声をかけ、湯茶でもてなして話しやすい雰囲気になっている。日頃の様子を話し、ゆっくりと時間を掛けて要望や意見も聞いている。遠方の家族には電話や手紙で意見を聞く努力をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングを設けて意見提案の話し合いをする。意見提案があればいつでも話し合いえる機会を設ける様にしている。	全職員が参加しやすい夜間にミーティングを行い、意見交換やケアの向上に向けた話し合いをしている。職員間や管理者とは、日頃から気安い雰囲気があり、備品の購入や対応法等はその都度話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	無理のない勤務状況にし、急用には職員間でシフト変更し休める様にしている。食事会を設けより良い関係を作り、休業補償にも入っているため長期療養も可。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	随時1,2名研修を受ける様にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内での同業者意見交換会を設けて頂いたため、管理者等は、その場での交流は出来ませんが職員が交流する場が出来ていないので、行いたいと思っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相手の立場に立って心情を理解し、心から笑顔で接し、心の寄り添えるケアをしながら信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けることは勿論、家族との協力も得ることで信頼関係を築いていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が必要としている支援が出来ているかどうか検討しよく話し合っ進める。現在は訪問マッサージの利用を希望された方が有り対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物を干す畳む、植木の植替え、草取り等、出来る事を手伝ってもらい職員と共に行って関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の訪問時には、出来るだけ長く留まって、お茶を飲みながら家族とのコミュニケーションを図っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友人と食事に行ったり、喫茶店に行かれたり、又、教会に行かれる方も有り、帰られる時には再び訪問して下さる様声を掛けている。	家族や知人に協力を得て、自宅での外泊や墓参の支援をしている。声が聞きたいという利用者には、電話をダイヤルしたり、手紙の宛名書きの支援をして、馴染みの関係が途切れないようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	難聴の方は両者の間に入り説明をし、昔話をしたり、作品作りに参加出来る様努めている。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の方もデイサービスを利用されたり、ケアマネさんと情報交換や家族との連絡の継続		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の利用者の言動、傾聴ボランティアとの会話等から、利用者の思いを把握し、本人の希望があれば沿う様努めている。	利用者がつぶやく言葉や仕草を見逃さず、日頃の顔の表情や行動を観察し様々な場面で意向を把握している。表現することが困難な人には、指差しや、うなずきで思いをくみ取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に生活歴、生活環境をに記入して頂き、又これまでサービスを利用されていた経過経歴を頂き、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の小さな変化も見逃さず、気付いた内容を常に職員間で共有し記録している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活リズムパターンシートや、担当者報告メモを活用すると共に、本人、家族、主治医等の意見も取り入れ、より現状に即した計画を作成出来る様努めている	生活リズムパターンシートを活用し、毎月モニタリングを全職員で行っている。医師の意見や利用者・家族の希望も入れて、担当職員・ホーム長・ケアマネジャーが計画を作成し、身体状況変化時は即見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別の記録記入し、朝夕2回申し送りをし、職員間で情報を共有している。その中で気づきや工夫を共有しケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診、通院、本人希望の出張マッサージの継続、条件付での看取りをさせて頂きました。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や地域の方から得た情報により、公共の施設を利用させて頂いたり、区長さんにお願ひし、ホームの様子を回覧板にて回して頂き、不用になったタオル、古布等の寄付に協力をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療で受診の他、家族の方の希望で他の医療でも受診を支援している。家族の協力関係も出来ている。主治医の協力にて看取りも行う事が出来ました。	協力医とはいつでも指導や助言が得られる関係がある。他の医療機関に受診する利用者もあり家族が付き添うが、必要な場合には職員が付き添っている。受診結果については互いに連絡をし合っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で、小さな気付きでも、職員間で情報を共有し適切な処置が出来る様にしている。いつでも主治医に連絡を入れ、その都度指示を受ける様にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院へ洗濯物を取りに行ったり見舞ったりし、家族の方とも連絡を取り合い、病院関係者の方と早期退院、退院後の事等、話し合うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期を迎えた家族との話し合いは出来ているが、何度もその時々で連絡を取り、支援できるようにしている。今回初めてホームでの看取りを、主治医の協力を得て、斎場までの手配等取り組みました。	入居時に事業所の方針及び対応し得る範囲を利用者と家族に説明している。協力医と常に連絡を取り指示のもとで、家族と職員で話し合いを重ね、今年、始めて看取りを行った。今後そのときどきに合わせて、支援ができるよう検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命救急講習を全職員が受講し、実践出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策の研修も受け、定期的に消防避難訓練を行い、又、地域の協力を得て協定書を作り、地域の方の一時的避難所としても使用出来るようにしている。	消防署と地域の協力を得て、年2回の避難訓練と消火訓練を実施している。地域の区長と毎年、緊急時協定書を取り交わし、避難場所としての受け入れなど地域との連携を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	耳元でやさしく声掛けし注意しているが、難聴の方には大きな声になりがちな為、手招きであったり、ひとりひとりの性格も考慮した上で対応をしている。	利用者の思いを尊重し、そっと寄り添い見守っている。利用者には、親しみのある方言を使っている。ノックで確認し入室している。ホーム便りに掲載する写真は、顔が写らない配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	家族に電話したい、お墓参りに行きたい、美容院に行きたい時等、本人の希望をくみ取り、家族との協力にて対応している(Ⅱ) 体操、入浴、レクリエーション等は本人の意思を尊重している(Ⅰ)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自室で横になりたい方、テレビが観ていたい方、一人ひとりが自分のペースで過している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意思で決められる方は、スカーフ、ネックレス等でおしゃれをしてみえ、決める事が出来ない方は職員が支援している。汚れた場合等はすぐに着替える様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好物を献立に取り入れたり、季節の物を使ったりと工夫をし、食事を楽しんで頂けるよう支援している(Ⅰ) テーブルを拭いたり、片付けを手伝って頂いたり出来る方には行って頂くようにしている(Ⅱ)	毎日、買物に行き、利用者の好みを考慮して献立を決めている。下準備・布巾掛け・後片付けをできる利用者と一緒にこなしている。テレビは消し、音楽を流して食事を楽しんでもらうようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食べる量を把握し、完食出来る分量にしている。栄養バランスは色を使って、水分は常に気を付けて、摂取できない方にはジュース、スポーツドリンク等、飲み物を替えて摂取しやすく支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨き、出来ない方は口をゆすいで、義歯の方は夜外して消毒などし、舌の苔取り等も受診している。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失敗の多い方には、誘導時間を増やし、失敗が少なくなった方にはリハパンから布パンツに替えたりとその人に合った自立できる支援をしている。	トイレに行くことのできる利用者は、そっと見守っている。排泄パターンを把握し、利用者に合わせてトイレ誘導をしている。意思表示できない利用者にも、二人の職員で介助し、できるだけトイレでの排泄を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容の工夫、運動、水分摂取の声掛け等をし、予防に取り組んでいるが、頑固な便秘には医師の指示により下剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調、気分を考慮し、入浴剤を使用し、温泉気分になって楽しんで頂ける様支援している。	1日置きであるが、希望があれば毎日でも入浴をすることができる。嫌がる利用者には無理強いせず、時間を変えたり声かけの工夫をしている。希望に合わせてシャワー浴や足湯にすることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体を動かしたり、歌を歌ったり、天気の良い日は外出し、気分転換をはかる等、安眠出来る様支援し、それでも眠れない方には医師の指示により眠剤を使用する等支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服用している薬の処方を理解し、誤薬がない様職員2名で確認する。その場合声を出して、名前、日付等確認する様にしている。変化がある時は直ちに医師へ報告する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人その人にあつた事(草取り、カラオケ、ぬり絵等々)を行って頂いたり、誕生日には担当者と外出し、外食をしたり、買物をしたり楽しんで頂ける様支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の方や友人との外出(食事、喫茶店、買物)季節を感じて頂ける様ドライブに出掛け、花見、紅葉等見て気分転換を図っている。	喫茶店や買い物などの外出は家族の協力によることも多い。利用者が玄関から出たときには、職員が付き添い散歩をしている。誕生日には本人の希望を聞き、職員と一緒に外食したり、車イスの人も職員が介助し外出したりしている。	

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と利用者納得の上、小額を事務所で預かり、必要に応じて使える様にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて、いつでも電話出来る様にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間は清潔で落ち着いていただける様に、玄関ホールには季節の生花、壁には作品を展示している。季節によってお雛様、五月人形を飾ったりしている。共同空間に調理の匂いが漂い、生活感がある。	室内を適温に保ち加湿器を使用し、換気を適度に行なっている。居間のソファや長椅子の配置を工夫し、テレビを見たり新聞・雑誌を読んだり、自由にくつろいでいる。壁には手作りの作品が飾ってあり、こころ和むものがある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間の中でテーブル、ソファ、ベッド、廊下にはベンチ等があり、それぞれ好きな場所に腰掛け、テレビ、ぬり絵、読書、おしゃべり等、思い思いに過せる場所の工夫をしている(I、II)		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族の思いを理解して、希望に沿う様好みの部屋作りをしている。	たんす・衣装掛け・机などのほか、さまざまな備品を家族の協力により自由に配置して、居心地よく過ごすことができるようにしている。本人の希望で使い慣れたベッドを持ち込んでいる利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示、部屋表札、時計はいたる所に配置し、いつでも確認できる様になっている。バリアフリーの中にも段差があったり、スロープ部分も有り、見守りで自立出来る様にしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171900067		
法人名	有限会社東海ケア		
事業所名	グリーンホームかさほら II		
所在地	岐阜県多治見市笠原町4406-1		
自己評価作成日	平成26年9月10日	評価結果市町村受理日	平成26年11月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detai_2014_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2171900067-00&Pr_efCd=21&Versi_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成26年10月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

いつも原点に戻り、朝夕唱和する理念を元に職員はもちろん利用者さん方も元気で笑顔がある毎日を送れるように努めている。舞台つきの大広間は、地域の方々の踊り、マジック、又子供会の方達の発表の場として利用して頂き、利用者を交えた交流のばになって来ている。誕生日には利用者の意向を聞き、担当者が計画を立て一緒に外出する。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝夕申し送り時理念を唱和する。その中に「地域の協力を得て交流を深める」の文がある様に地域の方の訪問、防災訓練等来て頂いたり出向いたりしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板を持って行き、少しでも会話をして来る。地域の防災訓練、ボランティア、お祭り等に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	回覧にて古着、古タオル又は採れたての野菜、今年は蛍等色々な形で、持参して下さる方もあり、ホーム側はいつでも遊びに来て頂ける様にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議では、地域の方達からの要望があり、一時避難所として受け入れをしてほしい。との意見に対して受け入れさせて頂きました。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の福祉課、包括センターの方も運営推進会議に参加して頂き実情報告、情報提供を交え協力出来る様取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加し、身体拘束となる具体的な行為を正しく理解し、職員が常に入居者さんの行動に目配りし、施錠しなくても良いケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を受けて、職員全員で月1回のミーティングにて、入居者さんの様子を話し合い行動を見守り、声掛にて虐待防止に努めている。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度のシンポジウムに参加し、理解を深めようとしている。又現在制度を利用されている方があり、関係者との話し合いも出来る様になっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行いトラブルを防ぐよう理解、納得して頂いた上で契約に心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に意見箱が設置していますが、家族と直接意見交換できる様に努力している。毎月の手紙でも意見がありましたら・・と書いている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングを設けて意見提案の話し合いをする。意見提案があればいつでも話し合いえる機会を設ける様にしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	無理のない勤務状況にし、急用には職員間でシフト変更し休める様にしている。食事会を設けより良い関係を作り、休業補償にも入っているのので長期療養も可。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	随時1,2名研修を受ける様にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内での同業者意見交換会を設けて頂いたの、管理者等は、その場での交流は出来ませんが職員が交流する場が出来ていないので、行いたいと思っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相手の立場に立って心情を理解し、心から笑顔で接し、心の寄り添えるケアをしながら信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けることは勿論、家族との協力も得ることで信頼関係を築いていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が必要としている支援が出来ているかどうか検討しよく話し合っ進める。現在は訪問マッサージの利用を希望された方が有り対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物を干す畳む、植木の植替え、草取り等、出来る事を手伝ってもらい職員と共に行って関係を築いている。たこ焼き、お好み焼きを作って皆で食べたりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の訪問時には、出来るだけ長く留まって、お茶を飲みながら家族とのコミュニケーションを図っている。ご家族によっては、他の利用者さんと会話されたり、作品作りと一緒にされていかれることもある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友人と食事に行ったり、喫茶店に行かれたり、又、教会に行かれる方も有り、帰られる時には再び訪問して下さる様声を掛けている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	難聴の方は両者の間に入り説明をし、昔話をしたり、作品作りに参加出来る様努めている。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の方もデイサービスを利用されたり、ケアマネさんと情報交換や家族との連絡の継続		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の利用者の言動、傾聴ボランティアとの会話等から、利用者の思いを把握し、本人の希望があれば沿う様努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に生活歴、生活環境をに記入して頂き、又これまでサービスを利用されていた経過経歴を頂き、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の小さな変化も見逃さず、気付いた内容を常に職員間で共有し記録している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活リズムパターンシートや、担当者報告メモを活用すると共に、本人、家族、主治医等の意見も取り入れ、より現状に即した計画を作成出来る様努めている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別の記録記入し、朝夕2回申し送りをし、職員間で情報を共有している。その中で気づきや工夫を共有しケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診、通院、、本人の希望により出張マッサージの継続、条件付での看取りをさせて頂きました。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や地域の方から得た情報により、公共の施設を利用させて頂いたり、区長さんにお願ひし、ホームの様子を回覧板にて回して頂き、不用になったタオル、古布等の寄付に協力をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療で受診の他、家族の方の希望で他の医療でも受診を支援している。家族の協力関係も出来ている。主治医の協力にて看取りも行う事が出来ました。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で、小さな気づきでも、職員間で情報を共有し適切な処置が出来る様にしている。いつでも主治医に連絡を入れ、その都度指示を受ける様にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院へ洗濯物を取りに行ったり見舞ったりし、家族の方とも連絡を取り合い、病院関係者の方と早期退院、退院後の事等、話し合うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期を迎えた家族との話し合いは出来ているが、何度もその時々で連絡を取り、支援できるようにしている。今回初めてホームでの看取りを、主治医の協力を得て、斎場までの手配等取り組みました。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命救急講習を全職員が受講し、実践出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策の研修も受け、定期的に消防避難訓練を行い、又、地域の協力を得て協定書を作り、地域の方の一時的避難所としても使用出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	耳元でやさしく声掛けしているが、難聴の方には大きな声になりがちで、手招きであったり、ひとりひとりの性格も考慮した上で対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	家族に電話したい、お墓参りに行きたい、美容院に行きたい時等、本人の希望をくみ取り、家族との協力にて対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自室で横になりたい方、テレビが観ていたい方、一人ひとりが自分のペースで過している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意思で決められる方は、スカーフ、ネックレス等でおしゃれをしてみえ、決める事が出来ない方は職員が支援している。汚れた場合等はすぐに着替える様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好物を献立に取り入れたり、季節の物を使ったりと工夫をし、食事を楽しんで頂けるよう支援している。テーブルを拭いたり、片付けを手伝って頂いたり出来る方には行って頂くようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食べる量を把握し、完食出来る分量にしている。栄養バランスは色を使って、水分は常に気を付けて、摂取できない方にはジュース、スポーツドリンク等、飲み物を替えて摂取しやすく支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨き、出来ない方は口をゆすいで、義歯の方は夜外して消毒などし、舌の苔取り等も受診している。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失敗の多い方には、誘導時間を増やし、失敗が少なくなった方にはリハパンから布パンツに替えたりとその人に合った自立できる支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容の工夫、運動、水分摂取の声掛け等をし、予防に取り組んでいるが、頑固な便秘には医師の指示により下剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調、気分を考慮し、入浴剤を使用し、温泉気分になって楽しんで頂ける様支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体を動かしたり、歌を歌ったり、天気の良い日は外出し、気分転換をはかる等、安眠出来る様支援し、それでも眠れない方には医師の指示により眠剤を使用する等支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服用している薬の処方を理解し、誤薬がない様職員2名で確認する。その場合声を出して、名前、日付等確認する様にしている。変化がある時は直ちに医師へ報告する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人その人にあつた事(草取り、カラオケ、ぬり絵等々)を行って頂いたり、誕生日には担当者と外出し、外食をしたり、買物をしたり楽しんで頂ける様支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の方や友人との外出(食事、喫茶店、買物)季節を感じて頂ける様ドライブに出掛け、花見、紅葉等見て気分転換を図っている。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と利用者納得の上、小額を事務所で預かり、必要に応じて使える様にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて、いつでも電話出来る様にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間は清潔で落ち着いていただける様に、玄関ホールには季節の生花、壁には作品を展示している。季節によってお雛様、五月人形を飾ったりしている。共同空間に調理の匂いが漂い、生活感がある。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間の中でテーブル、ソファ、、それぞれ好きな場所に腰掛け、テレビ、ぬり絵、読書、おしゃべり等、思い思いに過ごせる場所の工夫をしている。住居の真ん中には空間のエリアが有り花を作ったり、時にはお茶等出来る様になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族の思いを理解して、希望に沿う様好みの部屋作りをしている。キリスト教の方は聖書等を置いてお祈りをされて見えます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示、部屋表札、時計はいたる所に配置し、いつでも確認できる様になっている。バリアフリーの中にも段差があったり、スロープ部分も有り、見守りで自立出来る様にしている。		